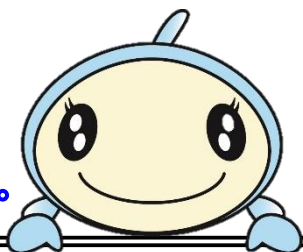


第4号
R5. 6月



【発行・編集】
滑川町教育委員会
TEL0493-56-6907

町の子供は町で育てる

「3つの合言葉」元気・学び・会話

滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-」

AIの活用は、人類最大の進化？

「ChatGPT」って聞いたことがありますか。ネット上などの膨大な情報を学習し、新しいオリジナルのデータやコンテンツを生成するAI（人工知能）の一種で、まるで人間のように会話ができるAIの1つが「ChatGPT」です。話題の「ChatGPT」他、数多くのAI自身が、AIについての質問に回答し、AI自身が書いた書籍「AIが書いたAIについての本」AI（著）、ジェームス・スキナー（監修）、発行：フローラル社を読みました。読んで、この本をAIが書いたことに驚きました。不自然な表現などありましたが、内容は十分に理解でき、私が見えないAIの存在を知ることができました。

AIは、御存じのとおり世界中で急速に利用が広がり、私たちの生活に大きな影響を及ぼし始めています。マイクロソフト社を創業したビル・ゲイツ氏は、「インターネットや携帯電話の発明に並ぶ革命だ」、イーロン・マスク氏は「恐ろしくすごい。危険なほど強力なAIが現実味を帯びてきた」と述べています。

私たちは、これから、AIとどう向き合っていけばよいのでしょうか。

教育現場での利用は日本でも広がってきていますが、詳しい実態は報道されていません。このような状況下で、国内の大学でも「学位やレポートについては、生成AIのみを用いて作成することはできない」、また、「レポート、小論文、学位論文等において、使用を認めない。使用が確認された場合は、厳格な対応を行う。」などとする考えを示しています。

また、文部科学省初等中等教育局の学校デジタル化プロジェクトチームは、「ChatGPT等の生成AIの学校現場の利用に向けた今後の対応について」を5月19日付で全国に通知しました。この中で、学校現場での生成AIの利用については、「批判的な思考力や創造性への影響、個人情報や著作権保護の観点等についてリスク整理が必要。一方、学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力として「情報活用能力」を位置付けている。新たな技術である生成AIをどのように使いこなすのかという視点や、自分の考えを形成するのに生かすといった視点も重要」として、生成AIの学校現場での利用に関するガイドラインを夏前を目途に策定・公表するとしています。

さらに、山形県高畠町の小学校では、「ChatGPT」を取り入れ、「AIとの付き合い方」を学ぶ授業が始まっているという報道もされました。

様々な文献や報道を見るたびに、教育に携わる者として期待と不安が入り交じる複雑な考えや思い、責任が湧き出してきました。インターネット、スマートフォン等、革新的なテクノロジーは、いつの時代も歓迎と困惑で迎えられてきました。この生成AIである「ChatGPT」等により試されているのは、私たち、人間としての生き方なのではないでしょうか。

「ChatGPT」を開発した企業のサム・アルトマンCEOは、「開発者がすべきことはリスクから目を背けず対処する方法を考え、人々が大きな利益を享受できるようにすること、AIは私たちの創造性を高めるもので人間に代わるものではありません」と述べています。

全力で体育祭に向き合っている滑川中学校の子供たちの真剣な表情を見ながら、これからの大人の役割の大きさを感じました。

先行き不透明な社会を生きていく子供たちを、どのように教え育てていくべきかを社会全体で考えていく必要を強く感じています。

そして、本当に人として大切にすべきことを育てていきたいと強く感じました。



青空おはなし会を開催します！



6月21日(水)に青空おはなし会を行います。気持ちのよい木陰で行われる楽しい読み聞かせの会に参加しませんか。耳をすませば小鳥のかわいさえずり、頬には緑のそよ風。そんな雰囲気の中でのおはなし会はきっと心に残るはずです。皆さんの御参加をお待ちしております。

日時 令和5年6月21日(水) 11:00から

場所 図書館外 南側テラス

対象 乳児から幼児

*雨天の場合は図書館の中で行います。

また、事前の申し込みは必要ありません。

直接、会場にお越しください。

「3つの合言葉」元気・学び・会話より

- 「**学びの時間**をつくりましょう。」
 - ・家庭学習の時間をつくりましょう。(運動やお手伝いを含みます)
 - ・一緒に本や新聞を読みましょう。(家読、共読の推進)

滑川町図書館：AV視聴ブース&タブレットが利用できます

館内でDVDやCDの視聴や e ライブラリーの利用、あわせてネット検索ができる AV 視聴ブースを開設しました。

また、e ライブラリーの利用とネット検索ができるタブレットの貸し出しも始まりました。

視聴覚資料の貸し出しの際の試聴などにとっても便利です。

御利用希望の際には窓口にお申し出ください。



町の誇り「米」を通して、町を知ろう

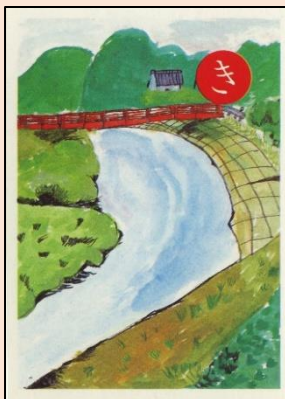
田植えが盛んに行われる時期となりました。各小学校でも、6月初旬に田植えを行います。町では、数多くあるため池を利用した伝統的な「天水がもたらす谷津沼農法」で栽培を行っています。

その中で作られている「谷津田米」は、里山に包まれた沼水と昼夜の寒暖差の大きい谷津田で作られ、滑川町特有の粘土質の土壌と相まってでき上がった米は大変美味しいと評価をいただき、令和3年献穀米献納されました。地形的な特徴を活かした谷津田での米作りは、他では真似することができません。また、ここで行われている谷津沼農業システムは日本農業遺産の認定を受けました。このように「米」を切り口に、町をより知って、町を誇りに思いましょう。

滑川町のよさを知ろう！「滑川郷土かるた」を通して No.6

★町には、滑川、他、市野川、和田川があります。今回は、川に関わる札を紹介します。

今日より明日へ 時代を流す 市野川

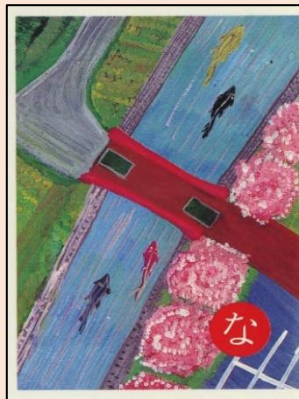


市野川は、寄居町と小川町境を源流として、小川町・嵐山町・滑川町・東松山市を流れ、吉見百穴前で滑川と合流します。合流後はそのまま市野川として吉見町を流れ、川島町で荒川と合流して、やがては東京湾に注ぎ太平洋の水になっていきます。

和田川の源流は、嵐山町の農業用ため池であり、滑川町、熊谷市、東松山市を経由し、和田吉野川に合流します。

市野川は小川町から川島町に至る川です。治水に農業用水に、大きな役割を果たしつつ、「故郷の川」の叙情を流す一面もあります。

滑川は 町の歴史を 語る川



令和5年1月号で紹介しています。